

Okayama
岡山市民版

利玄の「素顔」に触れて

あすから近水園 生誕130年 パネル展

岡山市北区足守地区 (1886～1925) 念パネル展が19、20日、出身の歌人木下利玄(一年)の生誕130年記



パネルを手に来場を呼び掛ける杉原代表

北区足守の近水園で開催。住民協賛グループ「備中足守竹取物語」が企画。利玄の師や親友が語った思い出を収めた雑誌の全文をパネル11枚で紹介して、早世した郷土の偉人をしのぶ。

雑誌は当時、地区一帯で月1回発行されていた「温故」の54年6月号。利玄が師事した歌人佐佐木信綱(1872～1963年)と文芸雑誌「白樺」をもに創刊した作家志賀直哉(1883～1971年)との対談や、親父の深い作家武者小路実篤(1885～1976年)らが人物評などを寄せている。

佐佐木は「大正の歌壇において恐らく一番優れた歌人」と評価。志賀は「とにかく歌に對しては非常に真剣」と語り、「なかなか滑稽な事をいふのが上手」と意外な一面を披露。同級生の武者小路

は「木下に死なれたあともよく木下の夢を見た」と懐かしんでいる。午前10時～午後4時。入場無料。問い合わせは杉原代表(090-1683-4305)。(平田知也)

「素顔」に触れてほしい」と話す。杉原康子代表(64)は「仲間たちとのエピソードをじっくり読んで、利玄の